つながる つつむ
地域とくらし

社会福祉法人による地域における公益的な取組み
実践事例から見るヒント集

東社協
東京都地域公益活動推進協議会

はじめに

幹事会委員長
高橋 信夫

東京都地域公益活動推進協議会は、社会福祉法人がその使命と役割を発揮することで、地域で輝く存在となることを大きなビジョンとして掲げています。また、令和４年度からは、東社協に加入するすべての社会福祉法人を会員とする組織体制になり、“オール東京の社会福祉法人”で、東京らしい地域共生社会づくりをめざしています。

このブックレットは、社会福祉法人がどのように地域の課題やニーズを把握し、どのような体制で活動を進めてきたのか、実践事例からポイントを拾い上げ、地域公益活動を始める上での手がかりとなるようなヒント集となっています。

日本は、少子化、高齢化、人口減少という困難な課題のなか、格差社会は進み、社会的孤立は先進国で飛びぬけて多く、国民の幸福感も低い状況です。障害者や高齢者に限らず、生きにくい人が多い日本では、社会福祉法人への期待はより高まっています。しかし、採用難の現状では、１法人１施設ではその期待に応えにくいため、オール東京の社会福祉法人、更には、様々な年齢や職業の人たちが連携することにより新しい力を生み、よりよい未来に繋げていく必要があります。

社会福祉法人は、地域公益活動が、これからの日本社会をより良くするために重要な役割があると認識することがとても重要だと思います。
今回、４つの地域公益活動の取り組みを取り上げましたが、どの法人・施設も地域のニーズを知ることにより、多くの住民と繋がり、世代を超えて新しいコミュニケーションが生まれています。皆さんの施設がある地域にも様々な福祉ニーズがあると思いますので、まずはニーズと出会い、地域の人たちと小さなところからでも活動を初めると良いと思います。

社会福祉法人の人材難は大きな課題ですが、地域と密接に関わることが、職員にとっても、利用者にとっても、地域住民にとってもより良い方向に向かうことに繋がると思います。

目　次

事例１　「地域住民を主人公に
～ふくちゃん食堂（子ども食堂）の取組み～」…… 3
社会福祉法人 福音会
特別養護老人ホーム 福音の家、軽費老人ホーム A 型 町田愛信園

事例２　「地域の縁側として
～しゃろーむ・かふぇ（認知症カフェ）の取組み～」…… 11
社会福祉法人 三育ライフ東京事業所
特別養護老人ホーム シャローム東久留米

事例３　「子どもたちとつながる居場所
～しらとり学習サロンの取組み～」…… 19
社会福祉法人 多摩同胞会
母子生活支援施設 白鳥寮

事例４　「リアン de つながるプロジェクト
～都市型複合施設の地域共生の場づくり～」…… 27
社会福祉法人 武蔵野会
障害者支援施設 リアン文京

事例から見る　地域公益活動 取り組みのヒント …… 35

参　考　地域における公益的な取組みの考え方 …… 37

事例 1

「地域住民を主人公に ～ふくちゃん食堂（子ども食堂）の取組み～」

社会福祉法人 福音会
特別養護老人ホーム福音の家、軽費老人ホーム A 型　町田愛信園

概　要

福音会は、毎月第２と第４の水曜日の 16 時半から、ふくちゃん食堂（子ども食堂）を地域の一軒屋で開催しています。参加者は子ども、保護者の方を含めて 15 名弱です。毎回７～８名のボランティアと職員２名で運営しています。平成 29 年からふくちゃん食堂を開始し、コロナ禍ではお弁当を配布していました。令和５年４月からコロナの類型が変わることも踏まえて、会食方式に変更して再開しています。

子ども食堂に通っていた子どもが高校生になってボランティアとして参加したり、赤ちゃんを連れたお母さんが参加するときは、子どもたちが赤ちゃんのお世話をするなど、子ども食堂を通じて様々な広がりが生まれています。

ヒント1 地域の困りごとを地域住民と一緒に取組む

福音会がある地域は、3つの小学校の境界域にあり、公立小学校の選択制度を導入していることから、近隣でも小学校が異なるため、子ども同士の交わりが希薄になりがちという特性があります。福音会は、地域の方と防災活動等で交流を持つ中で、「男の料理教室」を町内会で開催していました。施設の管理栄養士が料理教室に出向き、男性の方でも栄養のあるものを作れるようにと活動していました。その中で「福音会として地域に役立てる活動はありますか」と相談したところ、子ども会の会長より、活動の場所や人の確保、資金作りについて、相談を受けました。そこで福音会のデイサービスのスペースを使い、たけのこ掘り、茶道教室、恵方巻作り、干し柿作りといった年４～５回の交流会を開催し、子どもと施設入居者が交流を持ちながら、世代交流を深めました。

交流会のお昼は豚汁とおにぎりでした。豚汁はいろいろな野菜が入っていて、子どもたちがおかわりをして食べてくれました。それを見た保護者が「家だと食べないのに、なぜ食べるのだろう」と話された言葉をきっかけに、食育の機会にもなるのではと思い、民生児童委員や町内会の方々、子ども会の会長さん、町田市社協の方と相談を重ねながら、ふくちゃん食堂を開催しました。施設は小高い丘の上にあり、子どもたちが参加しにくいため、町田市社協に相談し、低廉で貸してくださる一軒家で開催しています。

福音の家 / 町田愛信園
施設長　戎（えびす）　めぐみ さん

ヒント2 なじみのあるボランティアが中心に運営

ふくちゃん食堂は、福音会になじみのあるボランティアが中心に運営しています。福音会は町田市に高齢者施設を開設して40年の長い歴史があり、地域の方と様々な交流を持ち、深い関係性を築いていました。ボランティアの中には、家族がデイサービスに通っていた方、福音会の元職員、デイサービスでボランティアをしていた方など、福音会となじみのある方が活躍しています。子ども食堂の運営だけではなく、果物や野菜、お米、お菓子などを寄付していただく方など、様々な方ができる範囲でかかわっています。

ボランティアの方に無理がないように、早退、途中参加もＯＫにしています。参加する子どもたちだけでなく、ボランティアの方も「ここだったら自分たちの居場所にもなる」と思っていただけるように、スタッフが心配りしています。また、立地が不便なため、大学生ボランティアが参加しやすいよう、車で送迎もしています。

調理ボランティアさんの声

子どもたちが美味しいって言ってくれるのがとっても嬉しいです！
残さず食べていただくのが嬉しいです。
「おかわり～」と子どもたちが駆けて来るときがとっても嬉しいです。
子どもたちが大きくなって大人になったとき、「ここで楽しくご飯を食べたな」と思い出してくれたら嬉しいです。

近所に住むボランティアさん

子ども食堂の近所に住んでいて、チラシを見て参加しました。子ども食堂の受付をしています。ご近所の話したことがない方と知り合いになったり、子どもたちが楽しく遊んでいる姿を見るのが楽しみです。

食材を届けてくれる近所の方

近所を歩いているときに子ども食堂の“のぼり”を見て、参加するようになりました。小さい頃に食べたくても食べられなかった経験もあり、子どもたちに美味しいものを食べて欲しくて、アメリカンチェリーやミカン、スイカ、フライドチキンなどの食材を届けています。

寄付いただいているアメリカンチェリーや野菜

中学生までは参加者として来ていたのですが、高校生になって来る機会がなくなってしまって、今度引っ越すことになり、今までお世話になったのでボランティアとして恩返ししたい気持ちで参加しました。
ボランティアの大学生や高校生の方と遊んだり、勉強を教えてもらいました。みんなで遊んで勉強して、一緒にご飯を食べるっていう、そんな場所が好きでした。たくさんの思い出ができました。

高校生ボランティア

大学生ボランティア

大学のボランティア部で紹介されて参加しています。子どもたちからたくさんの元気をもらえるのが楽しいです。子どもたちはエネルギーに溢れていて、そういう姿に接すると僕自身も元気をもらえて、明日から頑張っていこうって思うことができます。

ヒント3 各事業所の職員が参加、法人研修で職員への周知

事業をスタートする前に、法人全体として取組むため、各部署の代表者で地域活動委員会を組織化し、人員確保や予算化を図り、継続的に展開できるようにしました。

当初、ふくちゃん食堂の運営は軽費老人ホームの職員だけで担当していましたが、地域公益活動に興味がある職員もいるため、各事業所からも順番で参加し、多くの職員がかかわる仕組みにしています。

法人の全職員が受講する基礎研修の場で、法人理念の説明とともに、地域における公益的な取組の事例として、ふくちゃん食堂を説明しています。また、施設の廊下にふくちゃん食堂を説明した資料を掲示し、職員の理解を促しています。

施設の廊下に掲示しているふくちゃん食堂の取組

各事業所の職員が運営に参画

ヒント4 大切なのは日頃の些細なコミュニケーション

未就学児のお母さんから「子どもと一緒に参加したいのですが…」という相談が少しずつ増えています。未就学の子どもたちが一人っ子の場合、誰かと遊ぶ経験が少なくなるのですが、ふくちゃん食堂に来るとお兄ちゃんやお姉ちゃんと自然に遊んでいます。参加されたお母さんは「大家族みたいですね」って仰っていました。子どもを遊んでもらっているお母さんは、ボランティアさんと話をしたり、子ども食堂のお手伝いをしたり、子どもと少し離れる時間ができるのはすごく有難いと話されていました。

子どもたちは、ご飯を食べたり、宿題を見てもらったりする立場だったのですが、未就学児と遊んだり、赤ちゃんにご飯を食べさせたり世話をしたりする立場にもなっています。その間、お母さんはゆっくりご飯を食べたり、上の子と関わったりすることができて、いろいろ意味で広がりができています。

地域とのつながり作りは一見難しそうに思えますが、街ですれ違ったときの挨拶や、何気ない些細なコミュニケーションが基礎になると思います。日頃からのつながりがない中で地域公益活動に取組むのは、お互いにハードルが高いと思います。まずは地域の人に自分たちのことを知ってもらい、自分たちも地域のことを知ることが、地域公益活動の一番の近道だと思います。

福音会の職員は、地域のお祭りや飲み会に参加して、一緒にご飯を食べたりお酒を飲んだり他愛もない話をするようにしています。その中で、福音会を地域の皆さんに知っていただき、「あの職員さんがいるところだから安心だよね」と思っていただけるのではと考えています。

福音の家 / 町田愛信園
施設長　戎（えびす）　めぐみ さん

社会福祉法人 福音会

特別養護老人ホーム 福音寮、軽費老人ホーム 町田愛信園

所在地：東京都町田市野津田町 1932 番地

電　話：042-734-0631

WEB：https://www.fukuinkai.or.jp/index.html

法人ロゴマーク　法人ウェブサイト

昭和 57 年に法人設立。町田市を中心に、練馬区、文京区で特別養護老人ホーム、軽費老人ホーム、デイサービス、地域包括支援センター等の高齢者事業を展開。キリスト教精神である「隣人愛」に基づき、「仕える心」「担う心」「感謝の心」を基本理念に掲げ、日々の福祉サービスにおいて実践している。

事例２

「地域の縁側として
～しゃろーむ・かふぇ（認知症カフェ）の取組み～」

社会福祉法人 三育ライフ東京事業所
特別養護老人ホーム　シャローム東久留米

概　要

認知症の人やそのご家族をはじめとした地域住民が気軽に集える場として、認知症カフェの取組みが拡がっています。特別養護老人ホーム シャローム東久留米でも、近隣に一人暮らしの高齢者世帯が増えていることを受け、2023 年 2 月に認知症カフェ「しゃろーむ・かふぇ」をオープンさせました。

毎月第３土曜日の 13 時～ 15 時、地域住民や施設入居者のご家族などが自由につどい、おもいおもいの過ごし方で、和気あいあいと過ごしています。参加費は 200 円で、お茶と手作りのおやつも提供し、また、専門家が認知症の予防や相談にも応じています。

ヒント1　施設内のスペースを活用

「住民が集まりやすい場所で認知症カフェを開催してほしい」という市からの要請により、以前は幸町デイサービスセンターの近くにある都営住宅の集会所で開催していました。しかし、月に１回の開催日が祭事と重なり会場が使用できないことが続くなど、場所の確保が大きな課題でした。
そこで、シャローム東久留米の施設内にあるデイサービスセンターが土日は完全閉所のため、そのスペースを活用して開催できないか市に直接掛け合い、この度「しゃろーむ・かふぇ」がオープンしたのです！

シャローム東久留米
施設長　鷹部屋 宏平 さん

ヒント2　認知症サポーター養成講座の修了者が主体的に運営をサポート

「しゃろーむ・かふぇ」の参加者は地域の住民や、施設利用者のご家族などさまざまです。カフェの運営は、法人内の職員だけでなく、鷹部屋さんが講師を務める「認知症サポーター養成講座※1」の修了者にもお声がけし、ボランティアとして月に１回の活動を支えていただいています。シャローム東久留米では、そんなボランティアさんたちのことを“シャローム・パル※2”と呼んでいます。

シャローム・パルのみなさん

手際よくお茶を準備します

※１　認知症サポーター養成講座…講師役である「キャラバン・メイト」が、地域や職域団体等を対象に、認知症の正しい知識や、つきあい方についての講義を行う住民講座・ミニ学習会などのこと。
※２　シャローム…「平和」という意味、パル…「仲間」という意味

ヒント3　得意なことを活かした活動で無理なく継続

シャローム東久留米
施設長　鷹部屋 宏平 さん

活動内容は参加者やボランティアさんの得意なことを活かして、参加者全員で考えています。
裁縫が得意な方には施設で使う洗体用のミトンや車いすのシートカバーを作っていただいたり、地域で脳トレ教室を開いているボランティアさんには簡単なゲームやクイズを出していただいたりしています。参加者もスタッフも積極的に楽しめる内容にすることで、活動のバリエーションも増え、また、無理なく継続できる取組みにもつながっていくと思います。

裁縫が得意な方には、ミシンを使った裁縫に取り組んでいただきます。

みなさんに作っていただいた洗体用のミトンは、シャローム東久留米で大活躍しています！

漢字クイズや脳トレなどに挑戦する方もいらっしゃいます。

折り紙でかわいらしい飾り物をつくる方もいらっしゃいました。

包括の職員から声をかけられて参加しています。いまもシャローム東久留米の一室を借りて脳トレ教室を開いていて、しゃろーむ・かふぇでも脳トレなどの活動を提供しています。参加者は顔見知りの人も多く、近所で会ったときにお声がけすることも増えました。

ボランティア　佐藤さん

ボランティア　相澤さん

私の母親が認知症になったことから、社協や包括が企画する講習会などに参加する中で、包括の職員に声をかけられました。自身の経験から、認知症本人への家族としての接し方などを相談できる場にしたいという思いや、認知症本人に極力これまでと同様に生活してほしいという思いで参加しています。

もともと近くでお茶会のサロン活動をしていて、シャローム東久留米ともご縁があったため、少しでも恩返ししたいという思いで参加しています。このあたりの団地も高齢化が進んでいるので、こういった居場所がもっと増えると良いなと思います。

ボランティア　伊豆本さん

POINT

* 活動に使うミシンや、布・タオル・浴衣などの生地、脳トレ教材などはすべて地域の方から寄附していただいたものです。
* その他、必要な経費の一部は、ひとり 200 円の参加費でまかなっています。
* 普段はデイケアで使っている部屋なので、各種器材（冷蔵庫、飲み物サーバー、食器など）も使用できます。

ヒント4　地域包括支援センターとの連携

三育ライフでは東久留米市中部地域の地域包括支援センターも運営していることから、より地域に近い視点からも、しゃろーむ・かふぇの活動に連携して取り組んでいます。

東久留米市中部地域包括支援センター
山口 哲平 さん

今年の 3 月からお手伝いしています。私は裁縫が得意なので、参加者の方と一緒にミシンを使った活動をサポートしています。参加者と接する時には、気軽に世間話などを楽しみながら生活の困りごとなどを聞き取るようにしています。また、活動の周知は、近隣にチラシを配布するだけでなく、センターの職員から少し気になる方にお声がけもしていますが、移動手段がなくてなかなか来られないという方もいるので、送迎が今後の課題ですね。

生活支援コーディネーターとして地域のさまざまな場所に顔を出す中で、軽度の認知症などでお困りの方がたくさんいらっしゃいました。そういった方々にも「気軽におしゃべりできる場所があるよ」とお声がけして参加を呼びかけています。ここでの活動をつうじて、少しでもできることが増えて、それが自信につながると良いなと思っています。
私自身は、みなさんにかわいがっていただけるように、いつもとにかく明るく接するように心がけています！

東久留米市中部地域包括支援センター
生活支援コーディネーター
津雪 聡子 さん

ヒント5 地域に根差した施設をめざして

三育ライフは、「いのちを敬い、いのちを愛し、いのちに仕える」というキリスト教の教えに基づいた法人理念のもと、シャロームに関わる人みんなが幸せになることをめざしています。しゃろーむ・かふぇの活動を通じて、改めて「地域の中の施設」であることを再確認しながら、取組みを進めています。

取組む上で大切にしていることは、特養の利用者さんも“地域の方”だということを忘れないこと。「しゃろーむ・かふぇ」などの公益活動を通じて、地域にお住まいの方や特養の利用者やご家族と少しずつ関係性を築くことが、地域の中で信頼される施設になることにもつながると思います。
公益活動を始めるとき、「何かをやらなければならない！」と肩に力が入ってしまうと、継続するのも大変になってしまいます。地域の課題やニーズに合わせて、まずは場所を提供するだけでも良いので始めてみることが大切。そこからさらにニーズを拾い上げられると、活動はおのずと発展していくのではないでしょうか。

三育ライフ東京事業所
統括施設長
我謝 悟 さん

毎回季節のおやつも提供しています。
６月は紫陽花ゼリーでした。

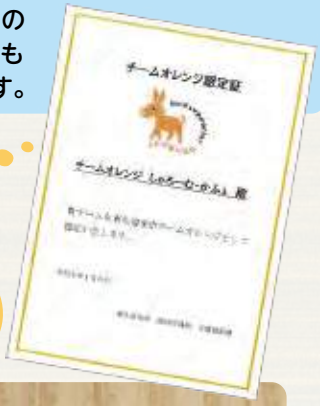
誰でも気軽に参加できるよう、玄関前には大きなのぼり旗が出ています。

今後の展望 ～地域の縁側として～

シャローム東久留米では「地域の縁側」のような存在となるべく、しゃろーむ・かふぇ以外にもさまざまな活動を通して、生きづらさを抱える人の居場所づくりに取り組んでいます。

シャローム東久留米
施設長　鷹部屋 宏平 さん

2024 年 1 月に、しゃろーむ・かふぇは東久留米市から「チームオレンジ（※）」として認定されました。また、毎月第 2 土曜日には、失語症の会「チャレンジ」を開催していたり、今後は 30 代～ 50 代の若年性認知症を患っている方々も気軽に集える居場所をつくりたいと思っています。
さまざまな困難を抱える人たちが、ひとりで悩まず、仲間と一緒に、ゆっくりと思いを共有できる、“地域の縁側”のような居場所を今後も提供していきたいです。



※チームオレンジとは…
ステップアップ講座を受講した認知症サポーター等が支援チームを作り、認知症の人やその家族の支援ニーズに合った具体的な支援につなげる仕組みのこと。認知症の人もチームの一員として参加をし、認知症の人と家族の困りごとを早期から継続して支援することを目的としている。

地域に開いた活動をつづけることで、地域の方がシャロームの敷地をまたぎやすくなってきたのではないかと思います。また、法人にとっても、施設内に定期的に外部の目が入ることはとても大切なことです。
今後も、子どもから大人までどんな人でも集える場づくりを進めて、地域とのつながりを深めていきたいです。

三育ライフ東京事業所
統括施設長　我謝 悟 さん

社会福祉法人

三育ライフ東京事業所

所在地：東京都東久留米市南沢５丁目 18 番 36 号
電　話：042-467-1561
WEB：https://www.shalom-tokyo.net/main/

法人ロゴマーク　法人ウェブサイト

平成４年設立。東久留米市内にて６つの高齢福祉に関わる事業、杉並区内にて２つの障害福祉と１つの高齢福祉に関わる事業を展開。「いのちを敬い、いのちを愛し、いのちに仕えることによって、神の愛の実現に奉仕する」という法人理念を掲げ、生命の尊厳と人権の尊重、思いやりといたわり、生活の質の向上を目標に、地域に根差した社会福祉を実践。

事例３

「子どもたちとつながる居場所 ～しらとり学習サロンの取組み～」

社会福祉法人 多摩同胞会
母子生活支援施設　白鳥寮

概　要

地域には家庭や学校に居場所がない中高生がたくさんいます。家庭でご飯を食べることができなくて、学校の給食だけを頼りにしている子もいます。

多摩同胞会では、毎週月曜日の 17 時 30 分から 20 時 30 分、母子生活支援施設白鳥寮と同じ敷地内にある高齢者施設で学習サポートサロン SKY を開催しています。母子生活支援施設の職員と学生アルバイトがかかわり、近隣に暮らす中学生３～４名が、宿題やテスト勉強など、自分がしたい勉強を行っています。毎週決まった時間に同じ場所で話をしながら、遊びも取り入れながら勉強をする居場所です。家や学校ではない第３の居場所として、子どもたちがふらっと来られるような適度な距離感で、細く長く、かかわっています。

ヒント1 法人内で何ができるかを検討して事業をスタート

府中市のコミュニティ協議会で校長先生や地域住民と話す中で「孤食の子どもたちがいる」と聞きました。多摩同胞会は幼児から小学生を対象とした事業はしていましたが、中高生へのアプローチが手薄でした。また、母子生活支援施設を退所した世帯へのアフターケアを充実したいと思っていましたが、アプローチするきっかけを探していました。
法人内の職員が集まり、多摩同胞会がこれまでしてきたことやこれからしていきたいこと、地域の課題等を話し合い、中高生を対象とした学習支援・居場所づくりすることにしました。

母子生活支援施設 白鳥寮
施設長　畑山 恭子 さん

ヒント2 サロンを始める前に関係機関へ説明

白鳥寮がある府中市では、府中市社協が「わがまち支え合い協議会」を設置しています。これは、身近な生活圏域の中で、地域住民や地域の様々な団体が、自らの「困りごと」に気づき、それを我が事として共有し、解決するための取組みです。文化センター圏域ごとに月１回会議が開催され、様々な活動をしています。

母子生活支援施設 白鳥寮
主任　嶋田 歩 さん

学習サロンを始める前に、地域住民に学習サロンを知ってもらうため「わがまち支え合い協議会」に出向いて、チラシを渡して「サロンにきそうな子がいたら連絡してください」とお伝えました。地域住民からは「もっとたくさん開催して欲しい」など、前向きな意見をいただきました。学校や相談機関等の関係機関にもサロンを開催することを伝えました。関係機関から紹介された子がサロンに参加しています。

ヒント3　法人内の施設の場所を活用して開催

多摩同胞会の拠点がある府中市では、同じ敷地内で、母子生活支援施設、子ども家庭支援センター、特別養護老人ホーム、養護老人ホーム等の複数の事業を運営しています。

母子生活支援施設 白鳥寮
施設長　畑山 恭子 さん

サロンを始めた当初は、児童館を併設している文化センターで開催していましたが、同じ敷地内にある高齢者施設の一室を借りることができたため、現在は施設内のスペースで開催しています。
コロナ流行前は夏祭りや餅つきなど法人の行事に、サロンの子どもたちがボランティアとして高齢者にお茶を出したり、一緒に体操をするなど交流が生まれています。

高齢者施設でボランティアをするサロン参加者

コロナ前は、毎月の学習サロン以外に、子どもたちが親にハンバーグやお好み焼きを作る食事会を開催していました。サロンの子どもたちで行く遠足やサッカー観戦も開催していました。コロナ禍では中止していましたが、再開に向けて検討しています。

子どもたちだけで作る調理の様子

食事会の様子

サッカー観戦

遠足の様子

ヒント4　中学生と距離が近い学生アルバイトを活用

サロン当日は職員１名と学生アルバイト１名の２名が担当しています。勉強を教えるというよりも、学習機会の定着に力を入れています。学校の宿題や定期テストの勉強など、子どもたちがしたい勉強をしています。ホワイトボードを使って英文を作ったり、四文字熟語を作るなど、遊びを取り入れた勉強もしています。

母子生活支援施設 白鳥寮
主任　嶋田 歩 さん

「勉強することが楽しい」と思ってもらうようにかかわっています。学習サロンが始まる 30 分前に、学生アルバイトと前回の勉強の状況や参加する子の様子を話し合っています。参加する子どもたちの体調や気分を見ながら、学生と一緒にかかわっています。以前はボランティアで参加していた方もいました。
学生の方が中学生と距離が近いので、学生から声をかけてもらうようにすることもあります。

アルバイトの
根上 真 さん

大学 1 年生の冬ごろから参加しています。様々な特性を持つ子どもたちの力を最大限に活かした学びになるよう、大学の教職課程で学んでいることを実践しつづけています。
学びだけに偏るのではなく、子どもたちの居場所の 1 つとなれるようにも努力しています。教員を目指す学生には、強くおすすめできる活動だと思っています。

学習サロンでは、学校の宿題やテスト前の勉強等、子どもたちがしたい勉強をしています。学校に通っていない子には「何が勉強したい？」と話しながら、勉強内容を決めています。カルタや四文字熟語を作る遊び等を取り入れ、飽きない工夫をしています。

スタッフは、子どもたちが学習サロンにふらっとこれるような適度な距離感で、その子にとって過度に重くならないように、気にかけていることをさりげなく伝えるようにかかわっています。

カルタを使った遊びの様子

今後の展望 ～大人とのかかわりを作る場所～

母子生活支援施設白鳥寮では、子どもたちがいつまでも来てくれる居場所を継続していく予定です。コロナ禍で中止している食事会やイベントの再開に向けて検討しています。

母子生活支援施設 白鳥寮
施設長　畑山 恭子 さん

勉強や食事をきっかけに、大人とのかかわりをつくれる場所にしたいと思っています。決まった時間に、決まった場所に、いつも話せる人がいることはとても大切だと思います。母子生活支援施設は退所者のアフターケアが求められており、その対象者の親子に声をかけるきっかけになっています。子どもの状況を把握して、必要があれば関係機関に繋ぐようにしています。

子どもたちがいつまでも来てくれる居場所にしたいです。何かあったらちょっと話したくなる、あの人がいるから踏みとどまれる、そんな存在になれたら嬉しいです。サロンに通っていた子が保育士を目指して専門学校に通っていて、成人になったと聞きました。子どもたちが成長する傍らに居られるのが嬉しいです。
今後は、コロナ前に実施していた食事会を再開できたらと思っています。サロンの子どもたちが食事を作って、親に食べてもらい、みんなとても喜んでいました。いつもは親に感謝を伝えづらいですが、その時だけは親に感謝を伝えることができて、とても良い雰囲気でした。

母子生活支援施設 白鳥寮
主任　嶋田 歩 さん

社会福祉法人 多摩同胞会
母子生活支援施設　白鳥寮

電　話：042-367-8801
WEB：https://www.tama-dhk.or.jp/

法人ロゴマーク　法人ウェブサイト

昭和 20 年に母子寮設立のために活動開始、昭和 21 年に財団法人設立、昭和 27 年に社会福祉法人設立。府中市、あきる野市、千代田区において、子育て事業、高齢者事業を展開。「私たちは家族を支援します」を法人理念とし、最も困っている人々のいのちと生活を支え、子どもたちやお年寄りの福祉向上に取組んでいる。

事例４

「リアン de つながるプロジェクト ～都市型複合施設の地域共生の場づくり～」

社会福祉法人 武蔵野会
障害者支援施設　リアン文京

写真：文京総合福祉センター

概　要

「文京総合福祉センター」は、障害者部門だけでなく、高齢者部門や子育て支援部門にもまたがる総合的な福祉施設として、文京区により 2015 年に開設されました。社会福祉法人武蔵野会では、障害者支援施設リアン文京を中心に、放課後等デイサービス、子どもショートステイ事業や、老人福祉センターと地域福祉振興施設の機能を合わせた福祉センターなどを運営しています。それらの施設を合わせた「チームリアン」では、「絆社会の実現を目指す」というミッションのもとに、都市型複合施設として、幅広い事業展開をしつつ、ふくしの街づくりを視座に、多世代交流や共生社会の実証をめざしています。

そんなチームリアンでは、かねてよりさまざまな取組みを通じて地域活動をすすめてきましたが、コロナ禍で地域住民と施設との交流が減ってしまったことなどを受け、「施設」という既存の枠組みを超えて地域課題の解決を目指すために、地域住民と協働してさまざまな活動をすすめています。

ヒント1 プロジェクトの経緯 ～地域とのふれあいから、NPOの立ち上げへ

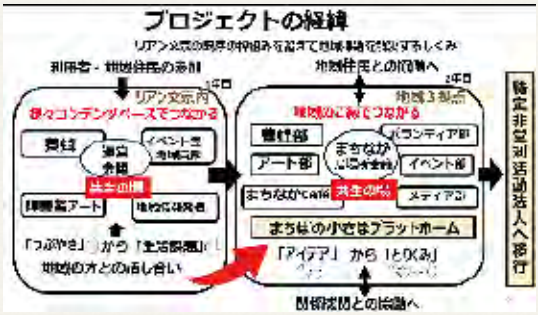
リアン文京　総合施設長
山内 哲也 さん

2015年にリアン文京が開設される前の準備期間中、ちょうど武蔵野会では法人全体で東日本大震災の被災地支援をおこなっていました。“リアン”という言葉はフランス語で「絆」や「つながり」を意味していて、被災地支援などで得た経験から、**「絆社会を実現したい」**という思いを施設名に込めました。そして、8つのコンセプトからなる「リアン文京のミッション」（※図1）を意識した「リアン de ふれあいプロジェクト」を立ち上げ、全世代を対象とした多様な地域活動をスタートさせました。

しかし、当時はリアン文京を拠点とした地域住民とのふれあいを前提としていたため、2020年の新型コロナ発生とともに活動は一旦停滞してしまい、施設を拠点として活動をすすめてきたことへの反省を強く感じました。一方で、パンデミックという非常事態の中、障害当事者の持つ「生きる力」も強く感じ、その強みを活かすためには、やはり「施設」という既存の枠組みを超えた新しい取組みが必要だと考えました。そこで、文京区社協の協力も得て、地域の関係者60名ほどを集めた対話集会や、関係者へのヒアリングを重ね、プロジェクトは地域の新しい社会資源を生み出すことに舵を切り始めます。

2021年からリアン文京では、4つの活動（養蜂、地域情報発信、障害者アート、イベント型地域貢献）を軸に、**地域住民主体の団体と協働して街づくりを進めるために、特定非営利活動法人（NPO法人）の設立を当面のゴールに設定した、「リアン de つながるプロジェクト」**を立ち上げます（※図2）。財源として、ニッセイ財団の地域福祉チャレンジ活動助成を2年間受け、それぞれの活動をとおして、地域住民とのつながりを深めていきました。

※図1：「ふれあいプロジェクト」8つのコンセプト



※図2：「つながるプロジェクト」の変遷

ヒント2 “養蜂”というコンテンツの魅力を活かして地域とつながる

チームリアンが取り組む活動、「養蜂部」についてご紹介します。

リアン文京　課長
中川 穣 さん

もともと、法人内の「千代田区立障害者福祉センターえみふる」が実施する養蜂活動にリアン文京も関わっていたことがきっかけで、2023 年 4 月からリアン文京でも本格的に養蜂活動をスタートさせました。
活動場所は、リアン文京の近所に住んでいる職員が自宅の屋上の貸し出しを申し出てくれたので、まずは近隣住民に丁寧に説明をし、理解を得るところから始めました。
養蜂家の先生に指導してもらいながら、職員が協力してミツバチを飼育し、春には近隣の住民やリアン文京の利用者さんを招いて採蜜会を開催しました。夏休みには地域住民に向けた親子教室を開き、採蜜体験だけでなく、環境問題について考える機会も提供しました。また、ハチミツが採れなくなる秋以降は、ミツロウをつかったワークショップを開催しています。

採蜜体験の様子

養蜂の魅力は何といっても「感動」です！ひとつの巣箱には約２万匹のミツバチが入っていて、巣枠の中に貯められたハチミツを遠心分離機で採蜜するのですが、採れたてのハチミツを味見すると、子どもから大人まで皆さん本当に感動されます。“養蜂”というコンテンツの魅力を活かして、これまでリアン文京と関わりのなかった地域住民とつながることができるのは、施設にとっても大きなメリットになっていると思います。

他法人の施設でも養蜂の活動をしているところがあるので、今後はそういった施設間で都市養蜂のネットワークをつくっていきたいです。また、文京区内には他にも養蜂活動している団体があります。ミツバチがつないでくれるネットワークを増やして、文京区の養蜂を盛り上げていきたいです！

リアン文京　施設長
野村 美奈 さん

ヒント3　地域情報の発信を通じて多様な主体とつながる

チームリアンが取り組む活動、「メディア部」についてご紹介します。

活動のきっかけは、武蔵野会が平成 30 年度から文京区が主催する「ミドル・シニア目線を活かした発信力強化事業」の委託を受けたことです。令和 4 年度からは指定事業として実施しています。この事業では、新たなる ステージへ歩みだそうとしているミドル・シニア向けの情報誌を地元住民の目線で作ることを目標に、全 10 回の講座を開き、毎年「セカンドステージ・サポート・ナビ」という冊子を発行しています。
メディア部では、この講座を修了した皆さんからの「愛する文京区のためにもっと何かできないか」という思いを受け止め、武蔵野会独自の地域公益活動として、文京区の人と地域をつなぐ情報誌『文京人』を発行しています。講座の修了者にお声がけし、1 年かけて習得してきた取材や編集のスキルを活かして、地域を応援する地域情報誌を自分たちだけで作っています。また、メディア部では NPO 法人地縁の輪の広報も担当しており、『文京人』の発行だけでなく、ウェブサイトや SNS での発信も行っています。取材を通して様々な人に出会えることはとても刺激的で楽しく、また、発行を重ねるごとに皆さんの編集スキルの向上を実感できるのも、とてもうれしいです。

文京福祉センター
江戸川橋・湯島
朝井 教子 さん

編集作業の様子

リアン文京　総合施設長
山内 哲也 さん

メディア部では、情報発信を通じて、知識やスキルを養成し、地域の社会参加へつなげていく、という点を大切にしています。また、取材をとおして地域の中の多様な主体とつながることができるという点も大きなポイントです。
今後は NPO 法人へ活動を移行していくことで、より幅広い広報戦略を実践していきたいと考えています。

ヒント4 障害当事者のもつ力を地域活動に活かす

チームリアンが取り組む活動、「ボランティア部」・「イベント部」・「アート部」についてご紹介します。

リアン文京／
放課後等デイサービスびおら
係長・児童発達管理責任者
岡部 悠介 さん

「ボランティア部」・「イベント部」・「アート部」では、障害当事者のもつ力を地域活動に活かすための取組みを進めています。障害のある子どもたちは、特別支援学校を卒業して社会人になると、大人の障害者をサポートする社会資源の少なさから、人との繋がりが減って孤立しがちになる傾向があります。
そこで私たちは、リアン文京に併設されている放課後等デイサービスの卒業生にも、地域に出て社会貢献していただこうと考え、リアン文京のイベントの手伝いなどを彼らにお願いすることにしました。すると、町会の方々が彼らと接する機会が自然と増え、町会の方々も彼らを必要以上にサポートし過ぎずに、お互いに良い関係性が育まれていきました。すると今度は、ボランティアをしてくれていた彼らのほうから、イベントの企画が出てくるようになり、現在では「Be-rin（ビーリン）」というボランティアチーム名でさまざまな活動を実施しています。

また、リアン文京ではもともとアート活動に力を入れていましたが、地域住民にも「障害者アート」という入り口ではなく、純粋にアートを楽しんでもらいたいという思いから、ワークショップの開催や、作品のギャラリー展示などを障害当事者と一緒に進めています。
かつては放課後等デイサービスで支援を受けていた「利用者」さんが、地域で活躍する「地域住民」として受け入れられていく姿を見るのはとてもうれしく、職員にとってのモチベーションにもつながっています！

ヒント5 地域の中に３つの活動拠点を設置

リアン文京では、「養蜂部」「メディア部」「ボランティア部」「イベント部」「アート部」によるさまざまな活動を通し、地域住民との話し合いを重ね、地域住民の「つぶやき」から「生活課題」を拾い上げました。そして、生活課題を解決するための「アイデア」を「とりくみ」へとすすめるために、リアン文京の半径 300m 以内に３つの活動拠点を設け、さらに地域住民との協働を広げていきました。

- Café Tweedia では、ワークショップやイベントの開催だけでなく、ひきこもりの状態にある方へ最短 15 分からの就労体験の場も提供しています。
- PLACE SUIDO-1 では、どなたでも気軽に楽しめるアートのワークショップなどを開催しています。
- PLACE SUIDO-2 では、まちなかの駄菓子屋さんや、文房具屋さんなど、地元のこどもたちの集いの場を提供しています。

NPO法人 地縁の輪（ちえのわ）の立ち上げ

リアン文京　施設長
野村 美奈 さん

これまでリアン文京では、町会のお祭りをお手伝いしたり、逆に町会の方々がリアンのお祭りをお手伝いしてくださったりと、近隣町会ととても良い関係性を築いてきました。そして、リアン文京がめざすまちづくりのために、地域住民主体の NPO 立ち上げを準備し、日頃お世話になっている小日水町会の皆さんに、「NPO 法人地縁の輪」の理事就任をお引き受けいただけることになりました。
これからは、リアン文京と地縁の輪が連携することで、いろんな可能性が広がっていくと思っています。私たちは、そうした新しい卵を孵化させ、きちんと育てていくことで、生まれたヒヨコはさらにいろんな形に変わっていくと思います。そのいろんな価値観をみんなで一緒に作っていきたいと思っています。

- リアン入所者の方々は、町会行事のお祭りや餅つき等のお手伝いを喜んで手伝って下さり、その明るく素直な姿勢に心を打たれました。また、地域全体に目を向けると、特別支援学級の体制の課題が話に上がる事があります。地縁の輪の活動をさらに広げ、地域全体をより良くしたいと思います。（西堀さん）
- 地域の方の中には、リアン文京がある福祉センターの中に障がいをお持ちの方が生活する施設があるということを知らない方もいます。地域住民の方々に、少しずつ障がいをお持ちの方の生活のことや、福祉施設について知っていただけるように取り組んでいきたいと思います。（亀山さん）
- これまでは、町会とリアン文京、どちらかの活動にどちらかが協力する、という形でしたが、これからは、地縁の輪を通じて私たちが町会とリアン文京との橋渡し役になり、新しいイベントなどを企画から運営まで一緒に考えていけたら良いなと思っています。（湯本さん）
- 町会の活動を通して、これまで接点のなかったリアン文京の入所者の方々とつながりを持つことができました。町会としても、地縁の輪の活動に関われることはとても意義のあることだと思っています。地域住民と障がいをお持ちの方々との垣根が徐々に無くなって、誰もが一緒に楽しめる地域づくりを目指していきたいと思います。（丸山さん）

小日水町会のみなさん
（左から）亀山さん、湯本さん、丸山さん、西堀さん

地縁の輪

所在地：東京都文京区水道 2-10-18
電　話：090-3619-1325
WEB　：https://chienowa-npo.com/

地縁の輪

令和６年２月 NPO 法人として登記申請中。文京の街に暮らす人、学ぶ人、働く人、遊ぶ人、みんなが地元のご縁でつながって、居心地の良い、ふるさと我が街を創っていくための環境づくりを活動としている。

社会福祉法人武蔵野会

所在地：東京都八王子市旭町 12-4
　　日本生命八王子ビル２階
電　話：042-631-6341
WEB　：https://musashinokai.jp/

武蔵野会　リアン文京

昭和 23 年に武蔵野会の前進である「武蔵農園・武蔵寮」を開設し、その後昭和 38 年に「武蔵野児童学園」を設立し、社会福祉法人として認可される。「自分を愛するようにあなたの隣人を愛せよ」を理念にかかげ、現在は障害、児童、高齢の分野で、25 の拠点施設と 100 を超える事業を運営している。

事例から見る
地域公益活動 取組みのヒント

【地域ニーズの把握】

- 福音会では、子ども同士の関わりが薄くなってしまう地域特性を受け、かねてより子ども会の活動支援をしていました。そんな中、ふとした保護者のひと言をきっかけに、交流の場だけでなく、食育の場としても、法人が持つ資源を活かせないかと思い、子ども食堂を立ち上げることにしました。
- 白鳥寮では、府中市のコミュニティ協議会で、地域に孤食のこどもたちがいることを知り、以前から課題を感じていた中高生や母子生活支援施設退所世帯へのアフターケアもかねて、学習支援・居場所づくりに取組み始めました。
- リアン文京では、行事などを通じて近隣町会と関係性を育み、対話を重ね、地域住民のつぶやきから活動を展開することで、町会と一緒にまちづくりに取り組んでいます。

【運営スタッフ】

- 福音会では、法人となじみのある方々にボランティアとしてこども食堂の運営を手伝っていただいたり、以前「ふくちゃん食堂」に参加していた子どもが高校生ボランティアとして帰ってきてくれたりすることで、自然と多世代交流の場が生まれています。
- シャローム東久留米では、認知症サポーター養成講座の修了者にお声がけし、学んだ知識を活かして「しゃろーむ・かふぇ」の運営を手伝っていただいています。
- 白鳥寮では、中学生と年齢が近い大学生をアルバイトとして起用して、「しらとり学習サロン」を運営しています。

【活動場所】

- シャローム東久留米や白鳥寮では、法人が所有する施設内のスペースを利用することで、費用や移動の手間がかからないだけでなく、バリアフリーの安心できる環境で活動を実施できたり、地域住民と施設入居者との交流を生み出すことにもつながっています。
- 一方で、福音会やリアン文京では、施設外の地域住民が集まりやすい場所を借りて、活動を展開しています。福音会は、「ふくちゃん食堂」の開催場所として、地元の社協に相談し、アクセスの良い一軒家を低廉で借りています。リアン文京では、地元商店街の空き店舗を低廉で借り、地域住民の交流の場をつくっています。

【法人内の連携・共有】

- 福音会では、法人内研修の場で「ふくちゃん食堂」の取組みを共有したり、法人内の各事業所からも職員が順番で「ふくちゃん食堂」の運営に関わる仕組みをつくっています。
- シャローム東久留米では、法人内の地域包括支援センターと連携し、地域住民に「しゃろーむ・かふぇ」の参加を呼びかけています。
- 白鳥寮では、「しらとり学習サロン」の活動場所として法人内の特別養護老人ホームを使用することで、サロンに参加する子どもと施設入居者との交流が生まれています。

社会福祉法人には、人を支えることを専門とする職員の存在や、
生活を支える施設としての機能があり、
それらは地域における大切な資源とも言えます。

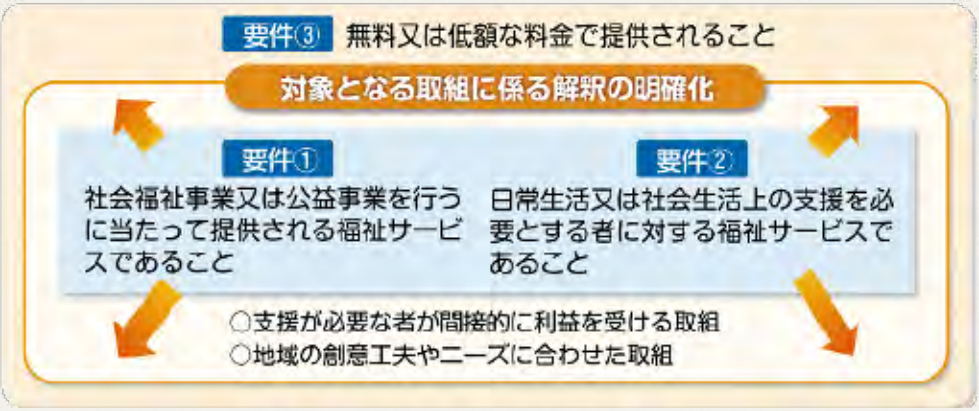
一方で、地域のニーズに応える活動を展開するためには、
場所、人材、資金などの面で、無理なく継続的に
支援を提供できるよう、さまざまな工夫が必要です。
まずは、地域の方と積極的にコミュニケーションを図り、
地域のニーズに応えるために、
法人としてできることを考えてみることから始めていきましょう。

参考

地域における公益的な取組みの考え方

すべての社会福祉法人は、その高い公益性にかんがみ、「社会福祉事業及び第 26 条第 1 項に規定する公益事業を行うに当たっては、日常生活又は社会生活上の支援を必要とする者に対して、無料又は低額な料金で、福祉サービスを積極的に提供するよう努めなければならない」という責務が課されており（地域における公益的な取組の責務）、地域の福祉ニーズ等を踏まえつつ、法人の自主性、創意工夫による多様な地域貢献活動が行われています（社会福祉法第 24 条第 2 項）。

また、平成 30 年 1 月 23 日の厚生労働省通知[※注1]により、「地域における公益的な取組」の解釈の明確化が図られました。無料または低額な料金で提供されることを基本としつつも、支援が必要な者が直接的のみならず、間接的に利益を受けるサービスや取組についても対象に含められることとなりました。



出典：全国社会福祉協議会 社会福祉施設協議会連絡会、「地域における公益的な取組の解釈の明確化」2019 年 3 月

この明確化により、例えば、以下のような社会福祉法人・福祉施設の持つ専門性やノウハウを活用した多様な取組も該当することになりました。

- 住民の居場所（サロン）、活動場所の提供等を通じた地域課題の把握や地域づくりに関する取組
- 住民ボランティアの育成
- 災害時に備えた地域のコミュニティづくり
- 行事やバザーの開催や環境美化活動、防犯活動
- 住民に対する福祉に関する学習会や介護予防に資する講習会　等

さらに、令和４年１月５日の厚生労働省通知[※注2]では、「新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中で、地域における福祉サービスの主たる担い手である社会福祉法人への期待は益々高まって」いるとして、地域公益事業を含む地域における公益的な取組の積極的な実施を求めています。

厚生労働省ホームページにおいて、『社会福祉法人の生活困窮者等に対する「地域における公益的な取組」好事例集』について、コロナ禍での工夫、取組による効果などをとりまとめ、公開しています。新たな取組を検討する際のご参考に活用いただけます。

※注１）社会福祉法人による「地域における公益的な取組」の推進について（社援基発 0123 第１号　平成 30 年１月 23 日　厚生労働省社会・援護局福祉基盤課長通知）

※注２）地域公益事業を含む地域における公益的な取組及び職員の処遇改善の取組の積極的な実施について（社援発 0105 第１号　令和４年１月５日　厚生労働省社会・援護局長通知）

◆東京都地域公益活動推進協議会ウェブサイト◆

東京都地域公益活動推進協議会ウェブサイトにて、都内の社会福祉法人が取り組むさまざまな実践事例や動画を掲載しています。新たな取組みを検討する際の参考として、ぜひご活用ください。

https://www.tcsw.tvac.or.jp/koueki/

発行日	令和６年３月
発行者	東京都地域公益活動推進協議会
問合せ先	【事務局】社会福祉法人東京都社会福祉協議会　福祉部経営支援担当内 〒162－8953　東京都新宿区神楽河岸1-1 Tel：03-3268-7192　FAX：03-3268-0635 https://www.tcsw.tvac.or.jp/koueki/

＊ウェブサイトに都内社会福祉法人のさまざまな地域公益活動事例や動画等を掲載しています